



**Data** 2022-2

監督：トッド・ヘインズ  
 脚本：マリオ・コレア/マシュー・マイケル・カーナハン  
 出演：マーク・ラファロ/アン・ハサウェイ/ティム・ロビンズ/ビル・キャンブ/ヴィクター・ガーバー/メア・ウィニンガム/ビル・ブルマン

👁️👁️ みどころ

私のライフワークは都市問題だが、1974年から始まった弁護士活動の原点は公害訴訟にある。“ギルティ”と呼ばれた公害への対応は、1970年の公害国会と公害対策基本法の判定で方向転換が図られたが、さて現実は何？

『MINAMATA ミナマタ』（20年）の公開には驚いたが、本作のひっそりとした（？）公開と“巨大企業が恐れた男”の執念にもビックリ！1997年に始まった「司法改革」の中で低迷を続けている日本の法曹界と若い弁護士たちは、こんな映画を観て元気を取り戻さなくっちゃ。

あなたは、本作の弁護士の熱意と執念をどう考える？また、巨額の賠償金の獲得は大勝利だが、それで問題は解決？それともどう考える？



■□■すべては1本の新聞記事から！その記事は一体何を？■□■

2021年9月にジョニー・デップ主演の『MINAMATA』（20年）が公開されたことにはビックリした（『シネマ49』36頁）が、公害問題が1960年代に始まった日本の「四大公害訴訟」だけでないのは当然だ。私は『エリン・ブロコビッチ』（00年）（『シネマ1』36頁）を観て、はじめて原告634名という大訴訟団を結成し、最終的に約350億円の賠償金（和解金）を獲得した、というアメリカの公害訴訟の実態を知ったが、2016年1月6日付ニューヨークタイムズ紙の記事は一体何を？すべては、そこから始まることに！

本作でオハイオ州シンシナティの名門法律事務所に勤める弁護士ロブ・ピロット役を演じる俳優は、マーク・ラファロ。『スポットライト 世紀のスcoop』（15年）（『シネマ38』48頁）等で3度のアカデミー賞助演男優賞にノミネートされているが、たしかに主演よりは助演が向いているタイプ・・・？日本の水俣病を米国の写真家ユージン・スミ

スが知るところになった事情は『MINAMATA』を見ればよくわかるが、パンフレットにある、マーク・ラファロのインタビューによれば、ニューヨークタイムズ紙の「デュボン史上最悪の悪夢となった弁護士 (The Lawyer Who Became DuPont's Worst Nightmare)」というタイトルの記事は、俳優業とは別に個人的に長い間“環境活動家”を続けている彼にとって衝撃だったらしい。その結果、彼は自ら主演・製作して本作を完成させたわけだが、その出来は？

## ■□■この弁護士はこの男の問題提起をどう受け止める？■□■

TOHO シネマズ西宮 OS は合計12のスクリーンがあるが、本作は最も小さなスクリーンでの上映。同じ日に観た『キングスマン ファースト・エージェント』は満席だったが、本作の観客は約半分。新聞紙評で本作はそれなりに評価されていたが、やっぱりお正月映画としてはこんなシリアスな映画は敬遠されるわけだ。

本作冒頭は、ロブがアソシエイトからパートナーに昇格するところから始まる。これによって収入もぐっとアップするはずだから、妻のサラ（アン・ハサウェイ）も大喜び。しかし、そんなロブを予約もなしに訪問してきたのは、ロブの故郷であるウエストバージニア州パーカーズバーグに今も1人で住んでいる祖母の知人だというウィルバー・テナント（ビル・キャンブ）。彼は、農場を営む自分の土地が大手化学企業デュボン社によって汚染されている、と訴えたが、ハッキリ言ってこの男は“ブル弁”を目指している今のロブにとっては「招かれざる客」だ。「別の弁護士を紹介してあげる」と言って、とりあえずウィルバーを追い返したが、さあ、ロブは弁護士としてウィルバーの問題提起をどう受け止めるの？

本作のパンフレットには、本作に“インスピレーション／コンサルタント”として参加した実在の弁護士、ロブ・ピロットの「既存の化学物質について見直してこなかった結果に僕たちは直面している」と題する文章があるので、これはじっくり読み込みたい。

## ■□■“ブル弁” VS “労弁”。ロブ弁護士の選択は？■□■

故郷のウエストバージニア州パーカーズバーグに車を走らせて祖母と再会した後、ロブはウィルバーが営む農場の視察に赴いたが、これは一体なぜ？これが、受任前の私的な行動であることは明らかだが、この時のロブの気持ちは、自分の法律事務所は大企業デュボン社と密接な付き合いがあるため、自分の口利きでウィルバーの現状を改善してあげよう、というレベルだったらしい。しかし、今日の前で見る農場の実態と、突然狂ったように暴れ出した牛をウィルバーががむなく射殺する姿を目の当たりにすると……。さらに、その日ウィルバーから手渡されたビデオテープには、醜く衰弱して病死した牛たちの姿が生々しく記録されていたから、ロブは大ショック。私が弁護士登録した1974年当時の日本では、弁護士の“区分”として“ブル弁”と“労弁”があったが、さあ、ロブの弁護士としての選択は？

本作導入部が描く一連の流れは1998年のことだが、その年に既にロブはウィルバー

のために訴訟を提起したらしい。それから一年後の1999年には、ロブのもとにデュポン社の廃棄物に関する開示資料が届いたが、そこに記載された“PFOA”という謎のワードは、いくら調べてもまったく不明。もしや“PFOA”は環境保護庁の規制外の化学物質なのではないか。そう推察したロブは、更なる資料の開示を裁判所に求めることにしたが、その前途は？

## ■□■これぞ弁護士根性！ダビデとゴリアテの闘いの展開は？■□■

テフロン加工されたフライパンは焦げつかない上、水でさっと洗えるから超便利。そんな宣伝文句がまかり通っており、デュポン社は世界的に有名なメーカーになっている。しかし、今ロブが膨大な資料の中から発見した“PFOA”とは？“C8”とは？人間社会の進歩に技術開発は不可欠だが、それによって人工的に作り出されるさまざまな加工物は自然界に存在しないものだから、その後処理が大変。現在、全世界的にプラスチックごみによる海洋汚染問題が深刻になり、その対処方法が講じられているが、“PFOA”は一体ナニ？また、“C8”は一体ナニ？そして、デュポン社のテフロン加工されたフライパンは？

2020年夏、ミシガン州フリントで、汚染された水道水を飲まれた住人に総額6億ドルを支払うことが合意された、とのニュースが流れた。これは2014年から問題提起され、2016年にオバマ大統領が緊急事態を宣言し、社会派ドキュメンタリー映画監督マイケル・ムーアも2018年の『華氏119』の中で、欲のために市民の命と健康が害された例として大きく取り上げる中で社会問題となり、それなりの救済策がまとまった事例だ。しかし、『MINAMATA』で描かれた熊本水俣病も本質的にはこれと同じ問題だし、本作でウィルバーが訴えたウエストバージニア州パーカーズバーグの水質汚濁、土壌汚染による健康被害も本質的に同じ問題だ。ウィルバーからの問題提起をしっかりと受け止めたロブは、以降、弁護士としての全精力を対デュポン社との戦いに投じたが、その戦いの見込みは？

ちなみに、あなたは、「ダビデとゴリアテ」の物語を知ってる？これは旧約聖書のサムエル記第17章に記されているもの。誰もが恐れるゴリアテという巨漢の戦士の額を、羊飼いの若者ダビデが石投げと石をもって打ち、昏倒させ、ゴリアテのつるぎで首をはねて倒したため、弱小な者が強大な者を打ち負かす例とされているが、さて、デュポン社（＝ゴリアテ）に対して、ロブ弁護士はダビデになれるの？それとも・・・？

## ■□■法律事務所の経営は？弁護士の生計は？本作にビックリ■□■

日本で1997年から始まった“司法改革”は完全に失敗！私はそう思っている。もちろん、違う意見の方が多いが、司法試験の受験者が約5000名、合格者が約1500名に縮小してしまった現状と、弁護士バッジはつけたものの食うのに汲々とする弁護士がゴロゴロいる現状をみると・・・？

かつて、若く優秀な弁護士たちのあこがれの的だったのが、いわゆる大手法律事務所。これは企業の顧問弁護士になって安定した収入を得ることを目指す法律事務所だから、そ

こへの就職希望者が多いのは当然。ロブが所属する法律事務所は当然そうだし、冒頭、ロブがその事務所のパートナー弁護士（経営者）になれたことを喜んでる姿をみると、法律事務所の経営の実態や、弁護士の生計の実態がよくわかる。したがって、ロブがどの馬の骨ともわからない依頼者ウィルバーの応援活動を始め、有望な顧問会社になるかもしれない天下のデュポン社を相手に訴訟を始めたことに事務所はビックリ。事務所としては当然そんなロブに忠告をすべきだし、ロブが万一それに従わなかった場合にはロブの首が飛ぶのも仕方がないはずだ。私はそう思いながら観ていたが、本作中盤からの展開にビックリ！ジュリア・ロバーツ主演の『エリン・ブロボッチ』（00年）（『シネマ1』36頁）では、634名の原告団はひょんなことから約350億円という巨額の賠償金を獲得したが、本作は？

この弁護士は、この男の問題提起をどう受け止めたの？また、この法律事務所はなぜ、デュポン社を被告とする訴訟に全力を挙げて立ち向かうことになったの？法律事務所の経営と弁護士の生計は？

## ■□■粘り強い戦いで賠償金を！勝訴だが真の解決は？■□■

大型公害訴訟の最大の争点は因果関係の立証だが、日本の四大公害訴訟も、私が弁護団の一人として参加した大阪国際空港公害訴訟も西淀川大気汚染公害訴訟もそれに成功し、多額の賠償金を獲得することができた。それは、ウィルバーの訴えを聞き、ロブが1999年から始めたデュポン社を被告とする損害賠償訴訟でも同様だ。したがって、訴訟としては大成功だが、それで問題は解決するの？いやいや、そうではない。

裁判には長い年月を要するから、仮に勝訴できたとしても、その頃にはウィルバーの命は？また、裁判は単に勝敗だけでなく、さまざまな形の和解があり得るから、本作に見るロブとデュポン社との和解交渉の展開にも注目する必要がある。

本作は年代に沿って訴訟の進行を描いてくれるのでストーリーは分かりやすい。そして、本作のラストの焦点は、和解文書で設定された“C8”と発病との間に因果関係があるか否かの疫学調査の結果がどうなるかに集約されるので、それに注目！大量の患者たちの疫学調査に時間がかかるのは仕方がない。しかし、あまりに長期にわたってしまうと・・・？さて、真の解決は如何に？

2022（令和4）年1月13日記